

川開きの思い出汚さないで

「美しいまつり。へ若者が汗

ゴミのマナー向上に効果

7月31日と1日にあつた石巻川開き祭りでは、来場者らに気持ちよく祭りを楽しんでもらおうと、今年も多くのボランティアが清掃やゴミの分別に協力した。中高校生の人材育成講座「耕人塾」など若い世代の働きも目立

ち、積極的な活動で「美しいまつり」の実現へ汗を流していた。

祭りでは石巻市環境保全リーダーの会など多団体による川開きまつり「ゴミ・ゼロ・ボランティア事務局が、石巻駅前、立町大通り、アイトピア通りの3カ所にゴミ分別収集所の「ゴミゼロステーション」を設置。そこに中高校生の

人材育成講座「耕人塾」が、ゴミのポイ捨て防止などを訴えるポスターを張り出した。ポスターには川開き祭りの原点である川村孫兵衛の報恩感謝にちなみ、「まごべえもよろこぶ美しいまつり」と記した。

ステーションだけでなく、塾生手製の移動式ゴミ箱も用意し、「ゴミ回収しています」などと声を出して出店の多いエリアなどを回った。同じく事務局参画団体の

市子どもセンター「らいっ」利用者も、ゴミ袋を手に会場内を巡回。歩道の隅など目立たない場所に落ちたゴミを拾い集めた。

祭りが終わったばかりの2日朝には、例年清掃活動を行う地元町内会や石巻中学校のほか、今年は近隣中学校や事業所も自主的に加わった。

昨年約3500キだった祭りによるゴミの数量は大きく変わらないとみられるが、開催中と事後を通して協力者が増えたことで、例年以上にスムーズに会場復旧がなされた。

川開き祭り実行委では「きれいなまちに戻せるのは多くの人の支えのおかげ。特に若い人たちが協力する姿を示すことはマナー向上にもつながっている」と強調。ただ、「所定の場所以外で捨てられたゴミが山積している場所はまだあり、本年度内に完成する中央のかわまち交流拠点エリアなどは、活用とともにゴミ対策も考える必要がある」と話していた。



耕人塾特製の移動式ゴミ箱が啓発と清掃に活躍した